

2015年、お茶の水女子大学は創立140周年を迎えます

創立140周年を記念し、開校に関わる資料を始め、本学所蔵の貴重資料を展示します。

明治8(1875)年11月29日、本学は東京女子師範学校としてお茶の水の地で開校しました。大正12(1923)年の関東大震災で校舎が焼失した後は、仮校舎で教育が継続されます。昭和7(1932)年から現在の大塚校舎への移転が始まり、昭和11(1936)年に完了しました。戦後、昭和24(1949)年の新制大学発足時には、開校の地にちなんで「お茶の水女子大学」と命名し、現在に至るまで発展を続けています。

この140年の間、社会状況は大きく変化しましたが、本学は常に女性の最高教育機関としてあるべき姿を具現するべく努力してきました。

本展示では、本学の歴史を振り返るとともに、近年力を入れてきた「グローバルな視点をもってリーダーシップを発揮できる女性の育成」にかかる教育改革を概観します。さらに、大学憲章に掲げた「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として存在する」という理念の実現に向けた取り組みをご紹介します。

開催概要

会場 お茶の水女子大学歴史資料館(大学本館121・136室)

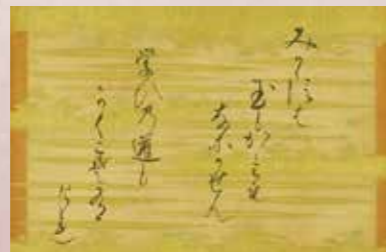
入場無料

見学を希望される方はご希望日の2週間前までに、ご希望日時と人数を下記お問い合わせ先へお知らせください。

大学の休校日等、必ずしもご希望に添えない場合がございます。
また、回答に時間がかかる場合もありますので、ご了承ください。



皇后令旨(「開校式挙行/際賜リン令旨」)



皇后陛下御歌「みがかずば」



展示風景



本学正門(1936年)

創立140周年記念式典 2015年11月29日(日) 挙行予定

お問い合わせ先

お茶の水女子大学 図書・情報課
歴史資料館担当
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
E-mail: shiryo@cc.ocha.ac.jp
TEL: 03-5978-5567(月-金 10時~17時)



お茶の水女子大学 デジタルアーカイブズ
http://archives.cf.ocha.ac.jp/tenji_ocha140/

創立百四十周年 記念特別展



会場:お茶の水女子大学歴史資料館
(大学本館121・136室)

主催:お茶の水女子大学歴史資料館
共催:お茶の水女子大学附属図書館

入場無料



お茶の水女子大学の百四十年



震災前の校舎全景（『卒業記念写真帖 MEMORY（大正4年3月）』より）

1 女子高等教育の黎明

東京女子師範学校の開校

大学の歴史は明治期に遡ります。お雇い外国人・モルレーが出した意見書を元に、文部少輔・田中不二麿が「女子師範学校設立の建議書」を提出、文部卿木戸孝允が設立を布達して国立女学校設置に向けた動きが始まりました。これに対し、大きな期待を寄せたのが明治天皇の妃である昭憲皇后でした。皇后下賜金もあり、お茶の水に校舎が建設され、全国から学ぶ意欲に溢れた女生徒たちが集結します。

明治8(1875)年11月29日、開校式が行われ、この日が現在の創立記念日となりました。また、皇后御歌「みがかずば」が下賜されます。日本最古の校歌として現在も歌い継がれ、本学の教育理念として受け継がれています。

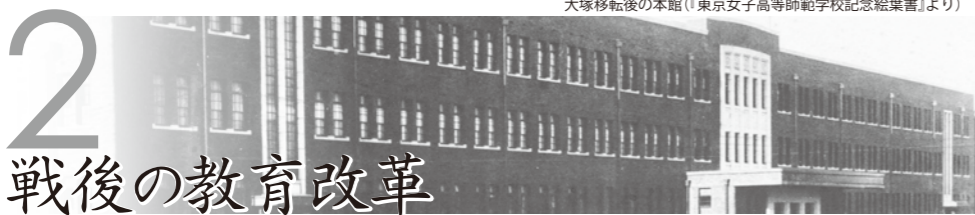
東京女子高等師範学校(女高師)へ

明治18(1885)年に東京師範学校と合併し、その女子部となりましたが、明治23(1890)年には分離して女子高等師範学校として独立します。

明治41(1908)年に東京女子高等師範学校と改称し、戦後の教育改革まで「女高師」の名で親しまれました。地名を冠したのは、同年奈良にも女子高等師範学校が設置され、東西の女子教育機関を区別するためでした。

大正12(1923)年、関東大震災により校舎が焼失します。昭和7(1932)年から現在の大塚校舎への移転が始まり、昭和11(1936)年に完了しました。その後、太平洋戦争の終了まで長く続く困難な社会情勢下にあっても、本学の研究と教育は続けられました。

大塚移転後の本館（『東京女子高等師範学校記念絵葉書』より）



2 戦後の教育改革

女子高等教育への期待

昭和20(1945)年に終戦を迎えると、社会情勢は大きく変化し、教育改革が行われます。女性解放・女子教育が叫ばれる中、旧制大学令に基づく国立女子大学設立計画が立てられました。この計画は予算不足で挫折しましたが、翌年には「女子教育研究会」「女子大学連盟」「大学婦人協会」が結成され、女子大学設置運動が高まります。

新制大学へ

昭和23(1948)年に新制国立大学実施要項が定められ、翌年、東西の国立女子大学の設置が決定されました。大学への昇格に際しては、伝統を引き継ぐために、開校の地にちなんで「お茶の水女子大学」と命名されました。

昭和25(1950)年、家政学部(現生活科学部)、理学部、文教育学部の三学部制となり、昭和28(1953)年、大学院の前身となる専攻科が設置されます。

昭和34年の様子（『新制大学十周年附属図書館開館記念絵葉書』より）



3 教育の高度化と多様化

大学院の設置

新制大学発足直後から、大学院設置に向けた運動が始められます。運動には、保井コノや黒田チカを始めとする女性研究者が多く含まれました。運動が実り、昭和38(1963)年に家政学研究科、翌年理学研究科、昭和41(1966)年に人文科学研究科が設置され、修士課程が整備されます。

博士課程は、昭和51(1976)年の比較文化学専攻と人間発達学専攻からなる、人間文化研究科の

設置が始まります。昭和56(1981)年には、本学から初めての課程博士(3名)が誕生しました。

海外校との交流協定

平成6(1994)年に初めて海外校との交流協定が結ばれ、海外交流が盛んに行われるようになりました。現在では、世界23カ国61大学とのネットワークを基盤に留学の門戸を拡大し、お互いに留学生を迎え入れています。

主な出来事

- 1875 東京女子師範学校開校式挙行
- 1876 附属幼稚園開園
- 1877 附属小学校設置
- 1882 予科廃止、附属高等女学校設置
- 1885 東京師範学校に合併、東京師範学校女子部となる
- 1890 高等師範学校女子部を分離、女子高等師範学校となる
- 1898 女高師卒業生等を対象に研究科設置
- 1906 第六臨時教員養成所設置
- 1908 奈良女子高等師範学校設置、女子高等師範学校を東京女子高等師範学校と改称
- 1923 関東大震災、校舎焼失
- 1932 大塚に移転開始
- 1936 大塚に移転完了、落成式挙行
- 1945 空襲により寄宿舎等焼失
- 1947 附属高等女学校廃止、新制中学と高校に分離改組
- 1949 国立新制大学お茶の水女子大学設置
- 1950 文教育学部、理学部、家政学部に再編
第1回徽音祭開催
- 1953 三学部に専攻科設置
- 1959 附属図書館開館式挙行
- 1963 大学院修士課程家政学研究科設置
- 1964 大学院修士課程理学研究科設置
- 1966 大学院修士課程人文科学研究科設置
- 1967 大学資料室設置
- 1975 創立100周年式典挙行
女性文化資料館設置
- 1976 大学院博士課程人間文化研究科設置
- 1981 本学より初めての課程博士号授与
- 1992 家政学部を生活科学部に改組
- 1994 オックスフォード大学クィーンズコレッジ、ケンブリッジ大学ガートンコレッジと交流協定締結(海外校との交流協定締結の始まり)
- 1997 大学院人文科学・理学・家政学研究科(修士課程)を人間文化研究科(博士前期課程)に改組
- 2002 21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学(人間発達科学専攻)」採択
- 2003 21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア(ジェンダー研究センター)」採択



現在の大学本館（平成23年頃の航空写真）

国立大学法人へ

平成16(2004)年の国立大学法人化以来、本学では特に「グローバル女性リーダー」の育成を使命として、新たな教育体制を構築してきました。

「文理融合リベラルアーツ教育」と「複数プログラム選択履修制度」による専門教育は、「深い」教養と「広い」専門性を持つ女性リーダーの育成を目的としています。グローバル化に対応した取組みとしては、国立大学初の「四学期制」の導入や、留学のための経済支援基金の新設など、留学機会を拡大する方策を打ち出しました。

大学院博士課程では、理系分野で産業界との連携を強化し、教育研究機関に限定することなく女性の活躍の場を拡大しようという試みも始まっています。

働く女性・学び続ける女性の支援についても、さまざまな取組みをしてきました。平成17(2005)年に設置されたいずみナーサリーは、大学に勤務する教職員の福利厚生をも兼ねた保育制度です。その翌年から始まるCOSMOS(女性研究者支援モデル育成プログラム)は、子育て中の研究者支援プログラムで、現在もより発展的な形で継続しています。

また、校歌「みがかずば」を冠する本学独自の奨学金制度も成果を上げています。この他にも、本学同窓会である桜蔭会を始め、特色のある奨学金が多数設けられています。

これからのお茶の水女子大学

女性の社会的活躍が期待される現在において、本学は、研究界・教育界のみならず、多種多様な業界の指導的立場で活躍する優れた女性を送り出しています。

研究機関としては、女性の活躍そのものを研究対象として、効果的に促進させることも必要です。そこで、新たに「グローバル女性リーダー育成研究機構」を開設することとなりました。国際的な女性リーダーシップ研究の拠点となり、真に豊かな社会の構築に貢献することを目指しています。

最後に、本学が掲げる大学憲章を紹介します。

「お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、
真摯な夢の実現される場として存在する」

これからも、広く社会で活躍し、豊かな未来の創造に貢献する女性人材を育む場であり続けるよう、努力を続けて参ります。

お茶の水女子大学と女性研究者

女性研究者の輩出

本学には、日本初の女性博士・保井コノ(昭和2(1927)年、理学博士)を始め、大勢の優れた女性研究者が所属しています。女高師卒業後、自然科学系では日本初の女子大学生となった黒田チカ(昭和3(1928)年、理学博士)、人文科学系では、関根慶子(昭和37(1962)年、文学博士)を始めとする人材を輩出してきました。

研究の道は必ずしも女性に開かれていませんでしたが、文系・理系を問わず、研究者として大成する女性は何時の時代にも存在しました。後進の指導にあっては、厳しくも深く慕われ、現在でも「保井・黒田奨学金」をはじめ、女性研究者の名を冠した賞や奨学金が多数設けられています。



保井コノ（「戦後生徒と」）

「女性科学者資料」の収集

昭和42(1967)年に大学資料室が設置されます。昭和50(1975)年には女性文化資料館となり、大学百年史編纂に関わる本学の資料のみならず、女性に関する資料全般を収集しました。

女性文化資料館は昭和61(1986)年に女性文化研究センター、平成8(1996)年にはジェンダー研究センターに発展し、国際的にも広く知られています。特色あるコレクションとして本学出身の「女性科学者資料」があり、保井コノ、黒田チカ、辻村みちよ(女性初の農学博士)、湯浅年子(国際的に活躍した核物理学者)らの資料を保存・公開しています。蔵書は附属図書館のジェンダー研究コーナーに置かれています。

大学史に関わる資料は、平成18(2006)年に設置された歴史資料館に引き継がれました。旧洋式作法室を改装した展示室が、大学本館1階に設けられています。

主な出来事

- 2004 国立大学法人お茶の水女子大学発足
- 2005 いずみナーサリー設置
次世代育成支援対策行動計画開始
- 2006 COSMOS(女性研究者支援モデル育成プログラム)開始
- 2007 大学院重点化(人間文化研究科を人間文化創成科学研究科に改組)
グローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」採択
- 2008 大学本館、徽音堂、附属幼稚園園舎、大学正門が有形文化財に登録
- 2011 みがかずば奨学金設立
- 2013 「国際化拠点整備事業補助金(グローバル人材育成推進事業)」採択
- 2014 「博士課程教育リーディングプログラム」採択
四学期制の導入
- 2015 創立140周年記念式典挙行(予定)



現在の大学正門（平成26年撮影）